

## 第 8 回

# 円山動物園リスタート委員会

## 会 議 録

日 時 : 平成19年3月26日(月) 13:30～

場 所 : 動物園プラザ

## 第8回 円山動物園リスタート委員会

1 日 時 平成19年3月26日(水) 13:30から14:30

2 場 所 円山動物園 動物園プラザ

3 出席者 委 員：大谷薫、岡田典子、服部信吾、原田昭、山本光子、笠康三郎

事務局：円山動物園園長、種の保存担当部長、管理課長、飼育課長 ほか

4 議 事

- (1) 基本構想の決定について(報告)
- (2) 今後の展開について

## 1. 開 会

○原田委員長 第8回ということで、きょうが最終回ということになりますが、円山動物園リスタート委員会を開催いたします。

それでは、きょうの出席状況についてお願いします。

○金澤園長 大川委員、小林委員、小宮委員、高木委員、原委員の5名から欠席の届けをいただいておりますが、斉藤委員ときくち委員からは連絡がないのでおくれてくるのではないかと考えております。

以上でございます。

○原田委員長 17日でしたか、この動物園のイベントであるスネークアート展ということで、新聞にも幾つか報道がございました。私も見に行きまして、こんなに爬虫類や両生類が好きな方々がいらっしゃるのかと、安心したといたしますか、驚いたといたしますか、なかなか趣味のいい、いろいろな作品がきれいでよかったなというふうに思いました。

## 2. 議 事

○原田委員長 きょうの議事は、まず、パブリックコメントとかいろいろな市民の声を集めるという期間がございましたが、意見もいろいろと寄せられたようでございまして、その意見を含めて、最終的な札幌市円山動物園基本構想をどうするかということについて、まず、園長の方からご報告をいただきたいと思っております。

○金澤園長 ただいま、委員長からお話がありましたが、2月15日から3月16日まで、市民の皆さんから基本構想（案）についてご意見をいただくということで、パブリックコメントに付しておりました。その結果、皆様のお手元にごございます横長の表ですが、33人の方からご意見をいただきました。その中で基本構想（案）に採用された分としては11人分、それから、趣旨が含まれているというのが12人分あって、それから不採用が10件ということで、大体3分の1ぐらいという雰囲気かなと思っております。

内容を申し上げますと、全部で33人、149件ありまして、実はその一つ一つがこの表にすべて書かれております。

例えば、1ページの4番ですが、ここにそれぞれの意見に対して動物園の考え方を書いておりますけれども、下線を引いている部分については、基本構想（案）の方に修正を加えてございます。修正というか、ほとんど追加をしてございます。そういう形でやっていて、11人の方の意見の一部が採用されているということになります。

全体を見ますと、採用されている件数というのが大体13件くらいありますから、大体80%から90%ぐらいになります。実際には、表の右端の方の構想案の修正内容というところですが、黒くなっているところは趣旨が含まれている、または、不採用になっている分でございますので、ほとんどは趣旨が含まれてございます。そういった意味で、趣旨が含まれているとか、今後、基本構想は別としても、これから基本計画や実施計画をつくっていく中に含まれるものが全体の7割ほど含まれてございまして、具体的にはこれから

獣舎をどうしたらいいかというようなところはこの辺に出てくるのだろうと思います。その辺は、これもしっかり踏まえてこれから検討を加えていくことになろうと思います。

修正というか、追加のあったところだけを簡単に申しますと、まず、4番目ですが、意見の概要としては、三つ目の週1回は休園日があってよい、また、その次の飼育員一人一人が伸び伸び仕事ができる環境が必要というところについては、動物園の考え方も含めまして構想（案）を修正してございます。

構想（案）の方では、23ページの真ん中くらいですが、（2）コスト削減のための取り組みの二つ目の丸の後半で、動物の観覧ストレス軽減にも配慮し、週1日程度の休日を設けるといような趣旨を書いております。

それから、飼育員一人一人が伸び伸びとというところにつきましては、24ページの上から6行目、二つ目の丸の2行目ですが、後半の方に、あらゆる機会に職員の意見やアイデアを積極的に受け入れていくほかということで追加してございます。

それから、5番目の下から二つ目、ごみの分別をしっかりとほしいというところがございます。これについては、事業系のごみと一般家庭のごみとの分別方法が違いますが、家庭のごみの方が一般的になっているのでそれに近いものにしてほしいということから、19ページの上から2行目の中ほどに、園内のごみの分別方法は事業所ごみの云々というように書き加えております。

それから、7番目の最初のポツの括弧書きの中のセット券の販売、これは公共交通の利用を呼びかけ、さらに、そのセット券を販売できないかという趣旨でございます。それから、二つ下の周辺の生物環境も豊かに（リス、モモンガ等、輪禍防止のため周辺道路にハンブを）ということですが、ここの部分についても、それぞれ23ページや19ページに書き加えてございます。

このように、一つ一つ整理しながらやっております。

それから、3ページ目の12番の交通局とタイアップして土・日の公共交通とのセット券というのは、今、7番で出たのとほとんど同じで一緒の扱いでございます。

それから、13番の上から三つ目の入園料と交通機関との連携も、同じ扱いで公共交通とのセット券というような考え方になります。

18番の上から二つ目は、動物園を学校教育に位置づけ、環境教育の学習の場として構想に盛り込むべきであるという趣旨です。これも、15ページの下の方にちょっと加えまして、環境教育と学校ということを表示してございます。

その下の20番目の真ん中のポツですが、学校など教育施設と連携すること（野生動物との付き合い方、ペットを捨てないこと、仲間への思いやりなど）ということも、やはり環境教育と学校を一緒にしている考え方なので、これも同じ扱いで整理してございます。

22番、最初のポツですが、支出削減によってかけるべきところにお金をかけないと、競争力が低下するため、適切な予算活用をすべきであるという部分についても、22ページの16行目にその表現を優先して入れてございます。

それから、7ページの27番ですが、これも三つ目のポツのところに環境問題の話があって、学校との連携が言われておりますので、先ほどありました20番と一緒にさせていただきます。

それと、30番のポツの一番下ですが、ごみの分別と減量化をしたらよいのではと、31番の五つ目のポツのバイオガスの活用やごみの分別をしてはということとは、同じ趣旨なので、19ページにまとめてごみの処理についてということで掲載しております。

これが、今回、主に手を加えたところですが、こういうふうに全部で13カ所に手を加えてございます。

そういうことで、基本構想にもともと出てきております基本理念や動物園の役割などの三つの柱については変更になるようなことがなく、今申し上げましたが、ほとんどがこれからやる基本計画や実施計画として今後検討していく部分になろうかと思えます。全体を見ましても、大体7割は、今後検討するとか、既にもう着手している部分に触れられていると思えますので、そういう整理をさせていただきました。

実は、基本構想は、22日に上田市長の決裁をいただきまして、今回、お手元にお配りしたこの基本構想にはもう案がついていません。前回までは案がついていて、パブリックコメントをいただき、その辺を整理したもので、きょうは最終的に市長決裁を終えたものを報告させていただいているということでございます。そういった意味では、皆さんに9カ月ぐらいご議論いただいた理念とか哲学の部分についてはほとんど変わらず、これから検討していく中に一部手を加えて、きっちり検討していく部分がふえたのかなと思えます。

以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

パブリックコメントについてご報告がございましたけれども、ただいまのご報告につきまして何かご質問ございましょうか。

私から一つお聞きしたいのですけれども、私自身が非常に気にしていたことがございます。それは、わたしの動物園という視点からの行動の中に含まれている項目で、今回、アニマルファミリー制度というものを軸にしております。動物を自分の家族のようにしてもらいたいということですが、それについては、資金面においてもえさ代などをファミリーが負担する体制づくりを行いますと。つまり、資金負担せよ、していただきたいという希望を言っているわけですが、これについて、パブリックコメントの中ではどのような反応がございましたか。

○金澤園長 アニマルファミリー制度は、ご意見として何件か出ていますが、この中で見る限り、賛同されている方が実は多いのですね。アニマルファミリー制度そのものを否定するようなご意見というのはほとんどありません。件数としては、例えば4番目にもありますし、5番目にもあります。数は数えなかったのですが、肯定的なご意見の方が多かったという内容になっております。まだ、アニマルファミリー制度そのものを具体的に提示

していないところもございませうが、そういった意味では結構ご理解いただいているのかなという感じはします。

4番、5番、それから15番、20番、21番、26番、27番と、七、八件くらいありますので、33人の方のうち3分の1くらいはそういったところを評価していただいているのではないのかなと思っております。ですから、この辺は、これからの取り組みで、どう制度をつくって、どう運営していくかというところをしっかりと出していけば、結構受け入れられるのかなという感じはしております。

○原田委員長 全体を見て、今、ぱっと目を通してという範囲ですけれども、割合、肯定的にご意見を言っているというところでしょうか。

○金澤園長 肯定的です。否定的な意見というのは、私が読む感じではなかったもので、大丈夫かなと思っております。

○原田委員長 生物多様性等については、どんなご意見が出ているのでしょうか。

私がここでちょっと気がついたのは、6ページの24番目に、三つの柱の関連性が弱い、このあたりは相互にもっと連携させるべきではないかというふうに書いてあります。

○金澤園長 生物多様性の中でも、特に野生復元の話がございませうね。ああいったところは、この中では評価されていて、いいですねというご意見になっています。

多分、この24番の方も、三つの関係性が弱いというのは、もう少し具体的な事業の組み立てになっていないからちょっとご理解をいただけないのかなと。今の基本構想の中ではそこまでしっかりと書き込まれていませうので、そういった視点だろうと思っております。どちらにしても、これから計画をつくっていくときに、これはきっちり読み込んで、しかも、三つの柱はみんな関係があるわけですから、ここは整理をしていかなければならないと思っております。

生物多様性で言えば、円山川の活用もそれに含まれていくわけですから、そういった意味では、結構、全体的にすごく受け入れられて、私自身も33人の方から百四十何件のご意見を出していただけたことはすごくよかったなと。ただ、やはり理念の部分に意見を出すのはちょっと難しいので、実施していくところの計画にほとんど意見が集中しているなと思っております。ですから、今後、これから検討していく中でしっかりとそこを盛り込めればいいし、また、来年の今ごろには中身を具体的に出さなければならぬわけですから、そのときに少しご理解いただけるのではないかなと思っております。

○原田委員長 こうやって見てみますと、やはり環境教育に力を入れることとか、生態系の問題とか、自然環境についての……。

○金澤園長 委員会の中で議論されているような内容がほとんど書かれています。

○笠委員 ごみのことが随分出ていますが、今のごみの分別はどういう分別ですか。

○金澤園長 今は、事業系のごみは、簡単に言うと、燃えるごみと瓶・缶・ペットボトルの2種類だけです。でも、家庭では6分別ですね。

○笠委員 大きくは三つです。

○金澤園長　うちは、乾電池などを分けるから6分別にしていますが、それをできるようにしていこうかなど。正直に言って、燃えるごみと瓶・缶・ペットボトルだけになっていますが、家庭ではそのほかにプラスチックが出てきますから、お客様にしてみるとそれだけでもちょっと雰囲気が違うかなと思います。

○笠委員　それを分けても、結局、出口はもとに戻ってしまうわけでしょう。

○金澤園長　いえ、分別収集になっていますので、例えば瓶・缶を収集する車が来ますし、一般ごみはその収集車が来るし、資源回収は別な時期に来ますので、結構、分け方をきちっとすればいいと思います。

○笠委員　昔、ある公園でそうやって分別しても、出口は事業系ごみで一緒に持つていくので問題になったことがあります。そういうことはありませんか。

○金澤園長　今は車が来る日が違います。うちも今まではそうだったのを、今は全部、委託で処理していますから、19年度からそれをきちっと分けて整理していこうということで、そういう委託の仕様内容にしております。

○笠委員　ごみ箱のデザインはよく考えた方がいいです。結構、不細工で目立つようになってしまうと非常にうるさい感じになります。

○金澤園長　少なくとも、燃えるごみならそのごみ箱というように同じものが置いてあるとか、そんな仕掛けが必要だと思っています。

○原田委員長　三つ目の柱の円山エリアの中核施設という柱についてはどうですか。

○金澤園長　例えば1番は、円山エリアの有効活用が必要であるという表現ですが、やっぱりそれも何点かございます。そういうふうに、意識としては、円山なり、まちづくりという視点がしっかり見られています。

それから、委員会の中でも議論がありましたが、円山公園の中の自然と一体になったと、この中では、リスが車にひかれたら困るという趣旨が載っていますけれども、そういった表現がされていますが、円山動物園とその周辺との組み合わせというのが意識の中にはありますね。ですから、見てくると、ここで議論されていたことが結構反映されているなと思っています。

○岡田委員　象について、論議しなくてもいいという意見と入れてほしいという意見が出ていますが、これから、象の今後について改めて意見を聞く予定はあるのでしょうか。

○金澤園長　前回の委員会のお話しさせていただきましたが、象をどうするのかは、しっかり市民議論をした上でと思っていますから、しかるべき時期にと。ただ、議論するといっても、国内で象を手当てできることはないのです。そうすると海外からということになるので、多分、実施するとしても時期は遅いと思いますが、検討はしっかりしておいて、これから動物舎をどうするかという配置の中で――象は面積が広いから結構大きなウエートを占めますから、そこを出すときにはしっかり市民議論をした上でと思っています。

一方では、実は、先日、ライオンが亡くなりました。そうすると、きっとライオンもと

いう議論になるし、そのうち、またパンダもと、ここには載っていましたが、そんなことが出てくるとなかなか耐えられないなと思ってしまいます。しかし、そうはいつでも、象、キリン、ライオンは何となく動物園の必須アイテムかなと思ったら、最低、その辺だけは手当てしなければならないなと思っています。そういった意味では、時期はここで具体的にいつとは言えませんが、19年度中にはちゃんと議論できるようにしたいと思っています。

前回もお話ししたように、象だけでもすごい面積をとるので、それをクリアしないわけにはいかないのです。

○笠委員 とべ動物園でアフリカ象の子どもが生まれたと言っていました。そんなにたくさん飼っているのでしょうか。

○金澤園長 ですから、海外でもいろいろありますが、狭いところで飼っていても繁殖しているのですよ。

○笠委員 来月に松山に帰るので、とべ動物園を見てこようと思っていますが、アフリカ象の子どもがよく生まれたなと思います。

○金澤園長 ですから、どういう環境をつくってやっているかなのです。

○笠委員 ああいう話題が出てくると、やっぱり飼えるんじゃないかと言われそうです。

○金澤園長 でも、この前にちょっと話をしたように、動物舎だけで10億円ぐらいかかって、動物を連れてくるのに1億円近いお金がかかって、そのランニングコストもといったらちょっと大きなお金になるので、そういった意味では、市民の皆さんと議論しないで、動物園として必要だからというだけではいけないのかなと個人的に思います。ですから、これから市の中でもしっかり議論した上で、どういう出し方がいいかはまさにこれから議論していかなければならないと思っています。

○原田委員長 基本構想（案）としてつくった柱については、おおむね市民の方々にある程度は受け入れられたような意見反映であったかなというふうにお聞きいたしました。

ここにいらっしゃる委員の先生方に、一言ずつ、きょうの報告も含めてご意見をいただきたいと思います。

大谷委員、いかがですか。

○大谷委員 さっき聞きそびれてしまったのですが、好意的に受けとめられているという話ですけども、回答者の属性というか、男女とか年齢層などに偏りはなかったのでしょうか。

○金澤園長 年代は整理しましたが、結構ばらけているのです。全体の件数が33人しかおられないので、傾向というのが余り極端に出てくるという感じではないのです。皆さんは実名で書いていただいていますから、知っている人に書いていただいているということもあります。

○山本委員 個人情報には聞きませんし、公にできませんね。

○大谷委員 ありがとうございます。



聞いたのは、それよりも、何か関心を持っている人とか、もともと好意的に考えている人だけから意見を集めても、今後の参考になる部分は少ししかないのではないかと。この委員会の中でも、私のように動物園はちょっと退屈するところがあるとか、そういう否定的な考えを持っている人に対してもどうやってアピールしていくかということを考えないと、もう一歩先に進むのは難しいのではないかなというふうに思いました。

○原田委員長 私は、このパブリックコメントをいただくということは、無関心な方にご意見をいただくというよりも、もしそういうものであれば、もっと早くに動物園に対してどう考えるか、私はこういう意味で無関心であるということがあろうと思います。しかし、今回は、ある方向をきちんと打ち出した時点ですから、これに対して関心のある人から意見をいただかないと、無関心な人にご意見をいただいてもしょうがないのではないかと私は思います。そういう意味では、こういう新しい構想ができれば、これを実行していく中でまたご意見をいただくのであれば、無関心な方も、こうなったのかということによって新しい世界が見えるのではないかと思います。しかし、余り意見を持っていない方については、この構想書を見せても、関心がないのでそれはいいやということで回避されてしまうのではないかと思います。

私は、製品等のテストマーケティングなどもやっておりますが、そういう場合に、無関心な方に幾ら聞いても実は意見は出てこないのですね。そういう製品に対して非常に強い関心を持っている方々に聞くと、非常に厳しい意見が返ってくるというようなことがあって、それが非常に参考になります。そういう意味では、私は、パブリックコメントというコメントの性格というものは、やはり関心を持っている人、ある意味では知っている方がいたということもありますけれども、そういうことでもこの内容をきちんと理解していただいて、本当にいいのかということを確認しておく必要もあるのではないかと思います。

○大谷委員 確かにそういう側面もかなり大きいと思います。例えば先ほどご指摘があった24番の方のやや色合いの違う意見は注目すべきかなと私も思います。

○原田委員長 そうですね。この方は非常に強い関心を持たれているのではないかと思います。

どうですか。

○金澤園長 このとおりでと思いますが、ただ、24番の方は、たしか市外の方だったような記憶があります。市外でそういう活動をされているお一人かなと思いますけれども、いただいたパブリックコメントは、これから実施計画をやっていく中に、何回も読み直して精査したいと思います。実際にいただいたものは文書で来ているわけですから、その文書をきっちり理解しながら作業をやっていくことになると思います。

○原田委員長 この意見の概要に書かれている内容は、これから基本計画を進める、19年度は基本計画に移していくこととなりますけれども、そういう計画立案に非常に意味を持ったご意見等が多いなというふうに思います。

山本委員はいかがででしょうか。

○山本委員 これに関してですか。

○原田委員長 このコメントとこのようなケースについてです。

○山本委員 実際に、この基本的な考え方を実行していくのがまず大事です。それから、委員会の中でも議論したことですけれども、市の機構の中で縦割りの壁を本当にクリアするある意味での好機、好素材というふうにとらえて前向きにやっついていかないと、今さらのように、パブリックコメントでも指摘されていますけれども、いろいろやっついていくと、少なくとも市の中で相当に連携していかないとできないことが結構あります。私たちもそうしていただきたいと、いろいろ発言しましたけれども、本当に動物園だけが単体で努力するのではなくて、もちろんそれがベースですが、いろいろなセクションが協力して札幌市としてチャレンジするテーマなのかなというふうに思います。ですから、これをやるとなれば結構大変だなと改めて思いますね。今のところは以上です。

○原田委員長 特に円山動物公園という公がとれてしまったということがありますが、少なくともこの構想の中に込められた気持ちをどう具現化していくかというところでやはり横の連携は必ず必要になってきますし、それを突破しないと実現できないことは多いかと思えますけれども、これから頑張ってもらえるように期待していきたいところでございます。

服部委員はいかがでしょうか。

○服部委員 私の方からは、2点ほど、ご質問やら意見を述べたいと思います。

まず、公共交通機関とのセット券についての意見が結構あったやにも見受けられますが、意図としているのは、やっぱりもう少し安くしてほしいという意向の意見なのか、そうではなくて、公共交通機関をもっと利用してほしいという観点からの善の意味でのセット券ということで意見を出されているのか。

もう一つは、1点でしたが、料金を65歳以上も有料化してみても30番に書いてありましたけれども、駐車場の無料化、そして中学生以下、65歳以上も有料化してみてもいいのではないだろうかという意見がありました。金銭的な面についての意見は、これ1本だけですね。そういった意味では、参考になるかどうかわかりませんが、この1点から見れば、入園料を多少いじっていくことについては市民の許容できる範疇を描いているのかなというふうな感じがしましたが、このセットの料金というイメージはどんなふうに受けとめられましたか。

○金澤園長 私の方は、どっちかというより、料金というより、集客という視点での書き方かなと思って理解していました。公共交通機関でもいいし、どこかと提携することによって動物園にもっとお客さんが来るのではないかという視点かなと思って見ていました。中身までは詳しく分析できませんが、そういう視点のとらえ方をしていましたけれども、今言われたように、まさに料金の点もきっとあると思われまます。

○服部委員 もう一つは、24番ですが、環境教育を年間パスポートにプログラムして、料金を上乗せして行うなどが考えられるというご意見です。よく理解しながらコメントを

いただいたと思っていますけれども、これも一つの意見として検討するに値する考え方の一つかなと思います。いわゆる年間パスポートをもっと魅力あるパスポートにすべきということだろうと思います。現状の中では単純に年間パスポートだけでございますので、そういった意味で、大変いい意見をいただいたのではなかろうかと思っておりますので、こういった点を踏まえながら、年間パスポートのあり方をもう一回検討していく、今後、基本計画に移していく中でこういったものも加え込んでいったらいいのではなかろうかと思っておりますけれども、どういう考えがありましたか。

○金澤園長 やはり皆さんとご議論いただいている中に、魅力アップとか、利用されていない時間帯をどう使うかというような議論を結構されておりました。例えば、夜の動物園に年間パスポートを加えることによってまた一つの展開ができるというような付加価値をつけるとか、これからの動物園側の努力が絶対必要なのだという趣旨ではすごくいい意見として受けとめておまして、これから検討していく中で考え方としてはしっかり使えると。だから、いろいろな組み合わせがきっとあると思っておりますので、そういう中で使えるのかなと思っておりました。

○服部委員 そういった意味で、年間パスポート料金としては、もっと付加価値の高いものとして市民に受け入れられるような金額というのが生まれてくるのだろうと思います。これは、高い、安いの問題ではなくて、いわゆるクオリティーだと思います。年間パスポートというのはやっぱりクオリティーの高いものにしておかなければいけない。そういった意味では、中学生以下も、65歳以上の方々もこの年間パスポートについてはそういった観点から、有料化というのでしょうか、そういったものを加え込んでも許容される範疇に入ってくるのではなかろうかというふうに受けとめました。そうすると、多少でも増収につながってきます。

○原田委員長 ありがとうございます。

ほかに、笠委員はいかがですか。

○笠委員 案としては、本当に1年間でよくこれだけまとまったと思いますが、やっぱりアクションプログラムを余り小出しにしないで、トータルなアクションプランにしていかないと、せっかくこれだけの構想がぼやけて各論に陥ってしまうのがちょっと心配な面があります。

それと別なことですが、先ほど山本委員がおっしゃったように、市の内部的なものでできることというのは、特にアクセスの問題とかサインとか、そのあたりは緊急にやらないといけないと思います。道路までいくと実現するにはすごくかかるとは思います。アクセスの対応などは、本当は今年からでも取りかからないといけないぐらいの課題なので、それは分けて、なるべく急いでやった方がいいのかなという印象はあります。公共交通機関の問題なども含めていくと、やっぱりアクセスを先に直さないことには、今は本当にひどい状態だと思っています。今も来る途中に見ていたら、今は除雪していないものですから、どぼどぼになっている中を観光客がこんなにして歩いていて、これではちょっと気の毒だ

など思いました。あれでは台なしになってしまいます。そのあたりをちょっと考えた方がいいかなという気がしました。

○金澤園長 そのこの部分は、もう協議を開始しています。歩道も含めてどうできるか、例えば木道を除雪するとか、そこも含めて議論を始めました。

○服部委員 そういった意味で、委員会で意見が出されていたシャトル馬車ですか、少し夢のあるような方向性で描かれたらとてもいいのではないかと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

岡田委員はよろしいですか。

○岡田委員 これから具体的な計画をつくっていく中で、ぜひ飼育員さんの声を生かした計画づくりというか、飼育員さんの声を第一に考えた計画をやってほしいなと思います。やっぱり一般の来園者からすると、動物にえさをやりたいし、さわりたいという欲求はあるのですが、やっぱりペットや家畜と野生動物は、人との距離も違うと思いますし、動物園生まれの野生動物と、もともと野生だった野性動物もまた距離のとり方が違うと思います。ですから、アニマルファミリー制度という一つの制度があっても、それぞれの動物で細かいところが変わってくると思いますので、飼育員さんとか解説ボランティアさんとか、動物のことを一番よく知っている人の声を反映させた計画にしていってほしいなと思います。

○原田委員長 ありがとうございます。

それでは、ほぼご意見も出たようでございます。きょうは、きくち委員、斉藤委員、それからいろいろ専門的な立場でご意見をいただいた小宮委員あるいは高木委員と欠席の方がたくさんいらっしゃって少し残念な気もいたしますけれども、きょうで8回目ということで、皆様にそれぞれの立場からそれぞれ異なったご意見もいただいたように思います。このように構想がまとまって、それに対する市民の意見も組み込んで、このような報告書ができ上がりました。

私は、委員長として、こういう世界は別に専門のつながりが深いということもありませんでしたけれども、改めて振り返って見ますと、専門の違いというよりも、これは人間が生きていく環境がどうあるべきなのかということ、私自身、改めて考え直したという経験ができたプロジェクトであったように思います。

もっと寒いところではどうやっているのだろうかとか、非常に商業的に成功している動物園がどんなふうにできているのかということも改めて目の前にいたしました。それから、こういう動物園の任務の大もとが世界中に、国際的に生物多様性の確保といった理念でみんながつながっているなど。それぞれの動物園がつながっていて、それに対してそれを支えるそれぞれの地域の市民の方々がそれを一生懸命サポートしていることも非常に強く感じたわけでございます。そういう意味で、私は、このような形で割合ときちんとした3本の柱で新しい動物園の構想が表現できたのではないかと。そして、これは言葉で書かれておりますけれども、これを表現する段階では、今度はアクションとして、行動としてそれを

見せる、行動の具体的な基本計画をつくるのが来年度になるわけでございます。

そこで、今まで委員の先生方からいろいろなアイデアを寄せられた内容はすべて公開されてストックされております。ホームページ上に残っておりますが、極力、そういうアイデアを具体的なアクション計画にのせていただければ生き生きとした動物園になるのではないか、そのように私は考えております。

円山動物園基本構想はこのようにまとまったということで、きょうはパブリックコメントの内容の報告と、それとのかかわりについてごいろいろ説明をいただき、また、委員の先生方のご意見もいただきました。そういうことで、これにて動物園の基本構想についての検討を終了させていただきます。

ただ、ここにまだ資料がございます。平成19年度円山動物園年間行事予定表、それから、入園者数比較についてでございますが、これについてちょっとご説明いただけまいでしょうか。

○金澤園長 今後の展開ということで、私の方から、何点かお話をさせていただきます。

まず、資料にございました年間行事という大きい方ですが、これは、実は18年度をベースにしまして、これに19年度を多少加えた程度です。実は、昨年4月からこんなにやっていたのか、事業展開していたのかというぐらいやっていました。そういった意味では、うちの職員は土・日もなく、私に来てから非常に忙しい思いをしていたのかなと思っています。その結果が、実はこっちの小さい方の人数にはね返っているわけです。

それで、19年度、来年度の予定で申し上げますと、全くの新規というのは、一番最初にありますアースデイEZO円山動物園会場というものです。アースデイは、ご存じだと思いますが、何年か前に、アメリカのウィスコンシン州が発祥で、そこから始まった地球のことを考える日ということです。それで、4月22日ですが、円山動物園も一つの会場としてのることになりました。今回は、環境教育、環境面を基本構想の中で打ち出していますので、そういったところに少しシフトして、しかも動物園でなければできないような仕掛けを考えている真っ最中でございます。そんなところで、4月22日にアースデイが全く新規で入ってきています。

あと、新規で入ってきているのは、真ん中くらいに動物特集ウィークというものがありますが、まだ予定にしてありますけれども、10月に入れてあります。テーマを決めて徹底的に動物たちを紹介していく時期をつくろうかなと思っています。あとは、ほとんど18年度をベースにしています。中でも、昨年は結構人気があったLOHASナイトもまた組み入れます。それから、今年のカルチャーナイトが7月20日ですが、19日の前夜祭を円山動物園で行います。札幌市内の公共施設はみんな参加して、夜の10時ぐらいまでやっていきたいと思いますというカルチャーナイトですが、円山動物園は前夜祭の会場になります。それから、その一つ下の夏休み特別展として昆虫学覧会を検討しております。これは検討しているというよりも、やることは決まっています。それで、JTBが主催になりますので、ここと動物園と北大がセットになって昆虫をしっかりと組み込んでいきたいと思

ます。あと、夜の動物園は、去年は水、木、金、土、日と5日間続けましたが、連チャンでやると動物にちょっと負担というか、ストレスがかかって、終わった後は動物の体調がよくないので、今年は縦に毎週土曜日にやろうかと。そうしたら、週1回になります。そのかわり、全体では回数がふえてくる仕掛けをつくって、7月から8月にかけて、夜の動物園を楽しめるようにしていきたいなと思います。ただ、お盆の時期はもう少し考えたいと思っています。そんなことを入れながら、19年度もしっかりやっていきたいなと思っています。一番下には、円山スネークアート展とありますが、今年もやっております、来年もやりますので、もし蛇好きの方がいたら、ぜひ帰りにでも見ていただきたいと思います。

そして、その結果、入園者の方ですが、17年度は49万人に対して、18年度は今のところ60万人です。きのうの末で切っていますので、大体60万6,000人です。また、春休みの何日かを見ていると、結構、暖かい日が続いているのでお客さんが多いのです。そんなことも考えると、大体61万人は到達できるかなと。そうすると、去年の24%、大体4分の1はふえるかなと思います。

そして、この中でも一番いいのが、有料と無料がありますが、有料ベースのところは27%アップということで、それこそ収支構造を何とか改善しろというご議論があったように、あの辺に少しは貢献しているのかなと思います。皆さんが基本構想の中に入れられたように、23年、あと4年後に100万人の到達を目指していきますので、今は61万人ですから、19年度は少なくとも70万人ぐらいは目指さないと追いつかないので、しっかり年間行事は組んでいきたいと思っています。

それから、来年度の予算で申し上げますと、選挙があるために骨格予算と肉づけ予算という形になっていますが、骨格予算の方では、予算要求した結果、動物購入としてはボルネオオランウータンの雌の購入が認められました。ですから、今いる弟路郎(10歳)の花嫁候補を何とか手に入れたいなと思っています。それから、花嫁さんを受け入れるに当たっては、今住んでいる弟路郎の家を少しリニューアルして新居らしくしたいと思っています。それから、野生動物復元事業の方ですが、これは今回の予算で認められまして、今後、自然探索会というか、野生動物の減少といった環境面もとらえたセミナーを含めながら動物園の中の体験ができるようにしたいと思います。それから、昆虫の方は、今ちょっと申し上げましたが、昆虫展の方とセットで、それに合わせて、園内の昆虫の調査とかそういったこともしっかりやっておいて、それこそ自然にいる昆虫が展示物になるような仕掛けも考えていきたいと思っています。そのほかには、それにかかわるのですが、自然環境の調査をもう少ししっかりしておく。逆に言うと、植物とか昆虫も看板がないとわからない、説明がないとわからないという状態なので、そういったところをしっかりとっていききたいと思います。これが予算の主な項目でございます。

それから、前回ちょっと申し上げましたが、新しい外部委員会ということで、皆さんもご存じのとおり、リスタート委員会を発展・改組して経営的な外部委員会をつくりましょ

うということがこの基本構想の中に盛り込まれています。この詳細は、これからもう少し内容を詰めた上で公表しながら進めていきたいと思っておりますが、今後、園の経営とか基本構想の理念、それから、これからつくっていく基本計画といったところでしっかりアドバイスをいただいたり、今の基本構想の検証をしていただけるような形の委員会を構成していきたいと思っております。この辺は、しっかり議論して、実際の運営方法をきれいに整理してからでないとなかなかお話しづらいのかなと思っておりますので、もう少しお時間をいただきたいと思っております。

私の方からは、以上でございます。

○原田委員長 ありがとうございます。

18年度に対して19年度はこのようにしたいというプログラムを、それから、17年度に対して18年度はこのような収支であったというご報告がございまして、このように入場者も随分ふえて、これは動物園側の大変な努力だったなというふうに思いますけれども、このようにやればこのようになることがわかったわけです。

○岡田委員 12月の入園者数が減っているのは、毎年そうなのですか。

○金澤園長 12月は、何ぼ暖かいといっても寒いということと、年末にかかってくるとちょっとお客さんは落ちるのですね。

それから、この中で顕著になっているのは、イベントが入っている月と入っていない月が結構明確なのです。実は、イベントが組まれている月は結構伸びているのですが、何もやっていないときは結構下がっているのです。すごく張り張りがついていて、これはしっかりイベントを組まなければだめなのだと。正直に言って、ただ動物を見せて、展示してだけではだめかなということを経回は十分認識しましたので、やってみないとわからないところはあります。

○山本委員 イベントをするので、結果的にその月はPRも多いからと。ですから、常日ごろ、もしかしたら小さいトピックスだって情報発信すればいいのかもしれない、そういう気がしますね。

○金澤園長 来られているお客さんに聞きますと、これだけマスコミや新聞に取り上げられると、やっぱり何か変わったのではないかなと思って見に来ますと言うのです。そして、来てみて、これはおもしろいと逆に感心して帰ってくれます。そんな感じなのです。だから、今、山本委員が言われたように、常日ごろから発信していなければだめなのですね。

○山本委員 5月と8月はゴールデンウィークと夏休みで何かやったのだなとわかりますが、1月は、寒いのに結構ふえているのはやっぱり何かありましたか。

○金澤園長 1月は、新年早々、元旦から営業していますから、その取り組みだとか、お泊り会とか、そういったことを繰り返しやってきています。それから、冬は、今までなかったのですが、特に12月の後半から、冬の動物園ということで毎週日曜日にサンデーセミナーを全部入れてきました。それを全部PRしていくので、そうすると、最初のうちは目立たなくても、それが積み重なってくると2月、3月に伸びてくると。冬は、12月が

去年の1.15倍、1月は2.3倍、2月は2.4倍ぐらい、3月はまだちょっと出ていませんが、そんな感じで推移してきています。2倍になったといっても旭山動物園から比べると低レベルですけれども、そういう形で、冬は休園していないということを皆さんに少しずつ理解してもらえました。そして、12月の広報に無料券も入れて、それは1月末までだったので、それが1月ぐらいから使われています。特に2月は、雪まつりに合わせて滑り台もつくって、雪まつり第4会場になるのではないかという勢いでつくったのです。ただ、そのときは、雨が降ったりしてよくなかったのです。今の滑り台も、皆さんがボランティアで、氷もただでいただいたりしながらつくっていました。そうやって、少しずつ皆さんのご協力がいただけるので、今はすごくいいなと思っています。

○笠委員 夜の動物園のときは、去年は裏参道が大渋滞で家に帰られず、ずっと遠回りして帰ったのですけれども、夜だと子どもが寝るという意識があるから、みんな車で来るのではないかと思います。そうすると、結局、回転数が悪いから入れなかったのではないかと。裏参道は下からも全然動かなかったのですよ。

○金澤園長 それで、営業時間を1時間くらい延ばしました。なぜかというと、駐車場に入れなくて、閉園の時間なのにまだ表に並んでいたのです。それで、9時のところを9時半、実際にみんなが入ったのは9時45分くらいでやっと閉められたのです。

○服部委員 そういった観点から見ると、やっぱり駐車場対策というのは何かしなければいけないと思いますね。

○笠委員 やっぱり別にグラウンド回りでシャトルバスを用意するとか、初めから宣伝しておかないと、これはもっともっとパニックになるような気がします。

○金澤園長 そこはなかなか難しいところですね。

○服部委員 ちょっと質問したいのですけれども、年間行事予定表が出ました。それに対して、月間入園者数は今年度と同様の数字が挙げられました。ということで考えていいのですね。

○金澤園長 はい。

○服部委員 ということは、70万人なり80万人を目指すということをしていかなければならないわけでしょうけれども、そういった意味では、去年の数字をそのまま組み入れるのではなくて、収支計画をつくっていくためには、この行事をやって、この月はこのような集客を求めるといった目標設定をしていかなければ収支計画は出てこないだろうと思います。その辺はやっておられるのだろうと思いますが、そういった観点からすれば、月間入園者数は去年並みの数字しか書いていませんから、この辺はもう少し精査しながら、このイベントに対して、この月についてはこのような考え方で、数字はこれだけ伸びるよというものを明確に分析しながら、過去の問題も含めながら、あるいは計画を分析しながら、入園者数を入れ込むと。そうでないと収支が出てきません。

もう一つは、冬場が相当数落ちている数字が18年度も計上されていますけれども、このイベントを挙げたときにはこれだけの集客をできるというもくろみはその中に入れて



おかないと。特に12月の6,000人を倍にするとか、何か一つの策を講じないといけないのかなというふうに感じます。

行事まで一つの計画として描かれたのであれば、ぜひ、この行事に対し、あるいは月の動きに対して予定入園者、目標入園者というものを明確にして収支をつくっていただければありがたいと思います。これでいったときに、来年度の収支はどのぐらいなるのかというのは当然描かれなければ、この行事に関しても相当の経費がかかるわけですから、そういった収支の考え方をきちっと入れてほしいということでございます。

その辺の考え方はどうなっているのですか。

○金澤園長 大変に難しいお話でございまして、簡単に言ってしまうと、天気によろく左右されるので、なかなか分析しづらいのです。イベントと人数の関係は整理がつくのですが、それに天気をかぶせるとがらっと想定が変わるので、今月落ち込んだ部分は来月頑張ろうかの世界に持っていかざるを得ないのです。それから、一番根っこのがんになっているのは、冬場の対策が今までなかったもので、冬場をどうできるかを改善しない限り、夏場に何ほ頑張っても結局は足を引っ張ることになるので、今は冬に少し力を入れた形でやろうと思っています。特に冬については、今シーズンは冬の映像データがたくさんつくれましたので、今度は、特に西日本に向けて夏から売込みができるかなと。また、東南アジアに持っていっても雪と北海道の組み合わせができるので、少しそういった展開ができるような仕掛けをこれから検討して、そういったところでカバーをせざるを得ないかなと思っています。

○服部委員 その仕掛けの中に、もう一つは有料入園者数をふやす仕掛けをきちっとして、この数字の中で有料入園者数が何%なのか、何人なのかという目標を設定した動きをしてほしいと思います。そうでないと、現状のままだと無料の入園者数が相当多いですね。

○金澤園長 18年度だけでとらえれば、大体半分が有料入園者数で、今までの傾向と似たようなものです。その前はもっと低いわけですから、今後しっかりやれば有料者はもっと伸ばせるかなと思っています。

○服部委員 その辺の目標設定をきちっとしていかなければいけないと思います。

○笠委員 夕方になると宮の森ガーデンを目指して台湾人が観光バスでどんと来るのですよ。ああいうのはここには全然来ないのですか。

○金澤園長 来ませんね。

今、観光バスが来ても、きちっとした駐車場対策がとれないので、なかなか難しいところがあります。ですから、バスが受け入れられる場所を何とか整備したいなど。そうすると入れようがあるので。観光バスは、駐車場がきちっと整備されていないとなかなか来ていただけないのです。

○笠委員 でも、結局、総合グラウンドと駐車場は冬はあいているわけです。ですから、そういうところを待機場所にして、また、そこに迎えに行けばいい話でしょう。

○山本委員 そのことに関して補足しますが、実は違うところの議論で、商工会議所さん

が札幌にも道の駅をという検討委員会があって、私はそれに入っています。最後の委員会は出ていないのですが、半年ぐらいの議論の中で円山・大倉山地区と藻岩地区がメインステーションとサブステーションみたいな感じで、従来の道の駅と都市の中のステーションの役割は当然違いますが、そこは省いて、いいのではないかという議論になっています。それで、大倉山シャンツェのところに結構大型の駐車場がございます。そこと、例えば円山近辺のいろいろな施設をつないで、2次交通の手段をつくって行って、あるいは徒歩でもいいのですが、季節によって手段は変わるのでしょうけれども、地下鉄の駅なども含めてエリアをいろいろ楽しんで、住んでいる人たちも楽しむ、それから札幌に遊びに来た人も楽しめるような仕組みができないかという議論をしています。

その中で、円山動物園はメインの施設としてとらえられていて、動物園の駐車場問題もそこで一つの解決の方向性としてあるかもしれない。ただ、2次交通の問題が依然としてどうするかというのがあります。同様に、相当いろいろなところで、円山動物園を注目スポットとして活用していこうという議論はありますね。さっき申し上げた市の中でもそうだし、周辺のいろいろなところでも随分出てきているので、いつものようにばらばらやっているとも時間も心もコストパフォーマンスも悪いので、ぜひ連携していただきたいと思えます。

○原田委員長 その問題については、まさに連携でしか解決できないと思えます。だからシャンツェの問題もあるし、向こうとしても、例えば動物園と手を握った方が、こっちに来た客は向こうへ、向こうへ行った客を動物園へというようにする。あそこは今でも年間に50万人ぐらいは来ているわけですから、その客に立ち寄ってもらい、こっちからも向こうへ立ち寄るようにすれば、全部が全部ではないと思えますけれども、その何割かでもお互いにプラスになるわけです。ですから、何とかそれが実現できないかと思えます。

それから、競技場についてもそうですね。

○山本委員 実際に園長さん同士で施設の話し合いを始めていると書いてあるのはそういう意味ですね。

○原田委員長 それで、何となく連携が難しいという話が伝わってきて、やっぱりそうだったかという感じですが、これから先を考えると、いつまでも縦割りでやってもしょうがないのではないかということがあるわけです。市としては、まちづくりですから、まちづくり局があって、そこがそういう連携を打ち出して、いろいろな局の縦割りをつないでいく仕組みをつくっていかなければいけないのではないかと私は思っているのです。来年度はぜひそのあたりの一歩を踏み出してほしいと思えます。

○金澤園長 今ご意見をいただいたように、市の中でも、動物園を助けなければいけないというのではなくて、協力しなければならないという姿になってきて、結構、議論はできています。忘れ去られた動物園から、ここにもあったぞぐらいにまでは変わってきました。だから、もう少し時間をかけていけばきっといいものになると思えます。

○原田委員長 それでは、この資料のご説明もいただきましたし、今後の展開については運営部会というものが進行する、それについてはもう少し時間が必要ということでございました。

議事内容としては以上で閉めたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○原田委員長 それでは、札幌市円山動物園基本構想については、このように報告書をつくったということを全員で確認したいと思います。

それから、三つ目の事務局からということでございますが、よろしく願いいたします。

### 3. 事務局あいさつ

○中西理事 リスタート委員会の最後の委員会ということで、一言、お礼のごあいさつを申し上げます。

昨年7月から約8カ月間、大変お忙しい中、しかも、短い期間に集中的に、時には長時間にわたりまして本当にご議論をいただきまして、ありがとうございました。

原田委員長を中心といたしまして、大変有益なご議論をたくさんいただいたというふうに思っております。おかげさまで、このように円山動物園基本構想という形で策定することができましたことを心から感謝申し上げます。

きょうを含めて全部で8回の委員会で行っていただきましたけれども、非常に具体的に、かつ動物園の将来を見据えたご助言をたくさんいただきました。今後、19年度は、先ほどからお話が出ておりますが、具体的な計画を立てていく年でございます。皆様方からいただきましたこういったお話の内容を基本計画あるいは実施計画の策定に反映してまいりたいと思っておりますし、また、それ以外にも日々の動物園の運営に生かしていくようにしてまいりたいと思っております。

昨年4月、行政監査から大変厳しい指摘を受けての私ども円山動物園のスタートでございましたが、この1年間、よりよい動物園にしていかなければならないということで、動物園職員、飼育員を含めて一丸となって取り組んでまいりました。そういう1年でもございました。この間、象の花子が亡くなったり、先日はライオンのジェスパが亡くなったりして、非常に残念で悲しい出来事もございましたけれども、一方で、また新しい命の誕生もございました。

このリスタート委員会でのご議論なり、いろいろな活動をしていただきましたが、こういったことも含めまして、動物園は真剣な取り組みをしているのだということが少しずつ伝わっていったのかなというふうに思っております。また、マスコミの皆様にも何度も大変好意的に取り上げていただきました。これも大変ありがたいと思っております。今年ほど、円山動物園が注目を浴びた年は、恐らく開園のとき以来だろうというふうに思っております。

おかげさまで、先ほどお話がございましたように、18年度は久々に60万人という大

台を超えまして私どもは大変うれしく思っております。今回の会議をもちまして、この委員会は終了するわけですが、円山動物園が生まれ変わったというところまではまだまだいっておりません。かつては、旭山動物園とか帯広動物園、釧路の動物園もそうですが、開園の際には、この円山動物園のスタッフがそれぞれ現地に赴いて飼育技術とか運営のノウハウを伝授してきた、そういった役割も担ってきたところがございますけれども、再スタートを切った円山動物園としては、初心に立ち返って、皆様が求める、あるいは時代が求める環境という要請にこたえていく、そして、市民の皆様に本当に愛されていくような動物園にしていきたいというふうに思っております。

どうか、皆様におかれましても、ぜひ引き続き私どもの強力な応援団になっていただきまして、ご指導、ご助言をいただいたり、時には私どもと一緒にパートナーとして、先ほど今年の行事の話もございましたが、新たな企画を実現したり、ご提案をいただいたり、あるいはお客様としてぜひお越しいただきたいと思っております。

簡単ではございますが、閉会に当たりまして、皆様へのお礼の言葉とさせていただきます。

本当にどうもありがとうございました。

#### 4. 閉 会

○金澤園長 それでは、これでリスタート委員会をすべて終了させていただきます。

本当にどうもありがとうございました。

以 上